

平成28年度 商店街若者協働プロジェクト事業

第9回若者チームWS次第

平成28年11月11日

【次第】

- 18:30 まかない夕食
↓ 会場の使用説明
18:55 後片付け
19:00 開会
第8回若者WS 情報提供
公共施設のこれからを考えるWS

19:20 具体案A、具体案Bについて
今後の進め方を検討する

<会場使用説明>

- ① 私物は別場所に集積すること
当面は筆記用具程度でOK
- ② まかない夕食は基本セルフサービス
- ③ 飲料もセルフで、冷蔵庫利用可
食器、カップ等は洗い物かごへ
- ④ 飲食後はゴミ分別集積のこと
- ⑤ トイレの位置、使用方法確認
- ⑥ 事務機等利用可、使用方法は順次
事務用備品類、コピー機等

「商店街内に新しい拠点を作る」

「頑張っている人を応援する」 似顔絵フェスティバルを想定

どのような組織構成をするのか？（事業主体）

どのような活動を展開するのか？（事業内容）

どのように継続的な資金を確保するのか？（収支想定）

20:30 商店街の賑わい創出活動（葛天）を考える。

「今年度の評価と、次年度以降の葛天に対する提案を整理する」

21:00 閉会

今年度のスケジュール

- 12月16日（金）第10回若者チームWS
平成29年
1月14日（金）第11回若者チームWS
1月 意見交換会2回目
2月18日（金）第12回若者チームWS
2～3月 意見交換会3回目
3月11日（金）第13回若者チームWS
3月25日（金）第14回若者チームWS

研修・イベント等スケジュール

先進地視察研修？？

WS テーマ「具体案 A の、事業計画について話し合ってみよう！」

① 食堂、飲食を中心とした機能<今野・本田・島倉・菅野>

<検討・発表内容>

子供食堂を想定した（月1～2回）
NPO法人あるいは個人による事業主体
ボランティアや食材の持ち寄り期待
夜間営業店舗の空き時間を利用する手もある

<質疑・アドバイス>

- まずは目指す拠点のイメージを明確に伝えることが先決で、そこから議論を始めよう。
- 月1～2回程度で賑わい創出ができるのか？
- 主婦シェアリングや国際交流カフェなど「食」に関するバリエーションを組み込み賑わいを創出したい。
- 孤食解消という目的と賑わい創出という目的を同時に達成できる方法を検討しよう。
- もっと様々な手法を抽出して検討しよう。

② BOX ショップなど物販を中心とした機能<鹿野・佐々木・大島・深谷>

<検討・発表内容>

ハンドメイドを中心としたチャリティショップを目指す。
見附市 Pine のような女性向けのBOXショップ
新たなNPOを設立し事業主体とする。
（学校・学生・商店街・地域団体 等）
広告宣伝が一番重要（チラシ、SNS、ネット）
BOXショップの出店者募集は比較的可能？
設備費は公的資金・助成制度を利用し、運営費
（家賃・光熱費・人件費）は自主財源が必須

<質疑・アドバイス>

- 店舗イメージはわかり易いが、個性的な出店者を募集することは可能だろうか？
- また、対象客となる若い女性は居るのか？他地区からの集客力は品揃えで決まる。
- 見附市や新潟市内の同様な店舗との競争に勝てるだけの魅力的な店舗を目指さなければ。
- フリーマーケット（不用品）とハンドメイドは別物。
- 学生が卒業時に不要な物品を取り扱ってもよい
- 公的資金や助成制度は使えるが、運営費については店舗での売上に依存せざるを得ない。
- 楽観的に考え夢を描いていて楽しそう。

③ 道の駅的な社会福祉活動を中心とした機能<佐藤・猪爪・大川・本間>

<検討・発表内容>

旧「街の駅」の場所を想定した。
畳スペースがあって、高齢者を呼び込み易い。
キッチン、トイレの設備が完備されている。
囲碁・将棋・書道など行政ではない活動中心
介護講習、認知症予防運動
高齢者が子供を見守る託児所機能。
若者向け「駄菓子屋」かき氷やアイスクリーム販売

<質疑・アドバイス>

- 高齢者を一括りにしては視野が狭まる
リヤヤ世代はまだ若い。麻雀などのほうが・・・
- 高齢者ほど足腰が弱くなるので、畳はマットでは無くなりつつある。テーブルの方が喜ばれる
- 福祉的拠点となると「お茶の間」的な拠点だが商店街地域に無ければならない理由付けは薄い
商店街地域の賑わいという課題とコンセプトをどう結びつけるのか？という論拠を持つ必要あり
- 論理的に整理した上で、地域の方々に提案して議論を深める方向で整理したい。

具体案B イベントに絡めた新しいソフト事業活動

※プロジェクトチームで新たに考え出すのではなく、この地域で一生懸命頑張っている個人や団体を積極的に応援し、その分野を「地域の宝」として外に向かって情報発信する。将来的にはその活動を通じて、この地域の独自性をアピールしてゆく。

一生懸命頑張っている個人や団体のヒント

やまだ みつる（白新町在住、似顔絵師）

- ・豊栄市商工会青年部部长経験者
- ・家業の自動車整備業から「似顔絵師」に転身
- ・デッキ401にて席描き似顔絵を本業とする
- ・今年4月からピア万代で席描き似顔絵スタート
- ・NT21「まるどり」にて県内の街歩きイベントのMCとして毎週土曜日に出演、現在放送中
- ・インターネット放送を2週間毎に生放送「アデーコデー」
- ・酒造メーカーに依頼しオリジナル日本酒「満月」発売
- ・似顔絵関連の弟子が4人「チーム自打球」結成
- ・よろっ to ローサで似顔絵塾の講師
- ・新潟日報加チャースクール似顔絵講座で講師
- ・野良猫の殺処分ゼロを目指してチャリティTシャツ販売
- ・知り合いの水田を借りて「ホイトコ田んぼ」で稲作を始め、素人に田植・草取・稲刈の体験をさせながら新潟の米をPR、販売
- ・とにかく知り合いが多く他分野で活躍している

※2010年に「にいがた国際NIGAOEフェスティバル」を初めたが数年継続したもののスタッフ不足や実行委員会の組織化に難あり、現在活動を停止しているが活動の再開・活性化を望んでいる。

豊栄商工会 青年部

- ・今年から「スタンプラリー」を始めた市場通り～本町通りに限らず、街歩きの仕掛けとして、今後を見守りたい

頓所 理加（横土居住、女子野球普及推進者）

- ・埼玉県出身、主婦、母親、7月4日OL、7月7日
- ・笹山小学校の笹山ライオンのコーチで指導者となる
- ・小学生の野球大好き女の子を応援するために「BBガールズ普及委員会」を立ち上げ、女子野球愛好者を励ます活動を開始
- ・県内は言うに及ばず全国的に女子野球関係者と親交を深め、高校野球、ウィナーリーグという硬式野球リーグや女子野球日本代表「モンソングャパン」等との関係も深い。また男子野球関係者とも親交が深く、野球全体の普及に励んでいる。
- ・昨年からは新潟市早起き野球チームとして女性だけのチーム「ヒロインズ」を結成し男子チームと堂々戦うというチャレンジ進行中！
- ・現在は開志学園高校女子硬式野球部のコーチとして全国を飛び回っている。

宮尾 浩史（大月在住、宮尾農園）

- ・無農薬、無肥料、自然栽培をキーワードに、自然に優しく人にも安心な農産物を作る
- ・米作りは元より、平飼いのにわとりが産む卵を「みやたま」というブランドで生産販売
- ・敷地内の味噌蔵を改装し、調理場を併設した研修場兼宿泊施設を開設し研修者を受入
- ・全国の自然栽培農家との連携を深め、有機農業スロフード、アグリツーリズム（農業体験+宿泊型観光）などを提唱し実践活動を続けている。
- ・「ホイトコ田んぼ」をサポートしている
- ・「大地通信」というミニコミ誌の発行を継続中

1. 葛天に対する評価・反省点・問題点など

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1.賑やかだが音楽・マイクが統一されていない。 | 2.チラシがわかりにくい。写真や配置が少ない。 |
| 3.イス・テーブルなど食べる場所が不足 | 4.チラシ・ロコミ・FBでの集客力を期待 |
| 5.運営スタッフの責任分担が不明確 | 6.目標・目的が不明確。実施する意味とは？ |
| 7.趣味を生かした出店を増やすべき | 8.補助金ありきでやっているのでは資金不足 |
| 9.50回目を迎えられたことを評価したい | 10.スタッフが足りない |
| 11.駅前通商店街のアピールが足りない | 12.イベントの責任者・担当者の役割が不明確 |
| 13.テントなどの備品が弱ってきている | 14.出店料が高い。出店料が安い |
| 15.雰囲気良く若い夫婦客が増えてきている | 16.歩いて行けるイベントの良さがある |
| 17.保育園等へのチラシ配布が効果的 | 18.歩行者の通路が確保できていない |
| 19.出演者はギャラが目的ではない | 20.飲食ブースをもっと増やしてほしい |
| 21.部門ごとの責任者が不明確だった | 22.告知の情報量が足りなかった |
| 23.各団体との共催は効果的だった（JC） | 24.出店者の必要設備の確認が必要（電気、水道） |
| 25.天候も良く今年は売り上げが良かった | 26.年間4回はつらい |
| 27.何のためにやっているのか？再検討が必要 | 28.楽しかった（ピクニック気分でした） |
| 29.ライブがメインになりすぎている | 30.ハロウィンなどの企画は続けてほしい |
| 31.子供から年配者まで楽しんでもらった | 32.もっと広く知ってもらおう活動を増やすべき |
| 33.TV ラジオなどの広告媒体を利用すべき | 34.様々な団体との共催を考えるべきである |
| 35.マンネリ化が心配です | 36.商店街の商店の出店者が少ない |
| 37.白新町と本町とのタイアップもありかな | 38.設営準備が疲れる。スタッフの高年齢化 |
| 39.大学構内にもポスターで告知して欲しい | 40.活気があって良いイベントだと思います。 |
| 41.スタッフの朝礼時の連絡不足があった | 42.面白いパフォーマンスが増えてきた |

2. 次年度以降の「葛天」企画について

- ①今年スタイルで第51回目を目指す
- ② 企画内容・運営方法を根本的に見直す
- ③ 新たなタイトルで再スタートする
- ④ 疲れるので今年度で終了させる
- ⑤ その他

- | | |
|------------------|--------------|
| 1.やめるのはもったいない | 2.現状のままならば反対 |
| 3.タイトルを変更する | 4.企画を見直して継続 |
| 5.ぜひ続けてください | 6.もっと外国人を活用 |
| 7.新たなタイトルで新たな企画を | |

3. 改善提案・新たなアイデアを教えてください

- | | | |
|------------------|--------------------------------|-----------------|
| 1.多国籍の民族衣装で料理提供 | 2.タイトルを変えるべき | 3.年配者の憩いの場となるべき |
| 4.地元の人が企画から参加する | 5.女性のグループ参加 | 6.若者グループによる参加 |
| 7.イベントのアナウンス | 8.来場者アンケート | 9.駅周辺の公園で実施する |
| 10.下町など他団体との連携強化 | 11.夕方から夜の時間帯が滞在時間が長くなるようだ | |
| 12.市場との関係性重視 | 13.回数を減らして規模の拡大 | 14.フリマ出店料の見直し |
| 15.チラシやクーポンの利用 | 16.近隣駅周辺へのPR | 17.チラシのグレードアップ |
| 18.FB等のSNS利用拡大 | 19.出演団体への協力依頼 | 20.メディアへのPR |
| 21.2日連続での開催もあり？ | 22.分野ごとに外注化できる（若者、地域団体、女性グループ） | |